令和２年度　第３回　新潟市男女共同参画推進センター運営委員会　議事概要

日　時：　令和３年３月１９日（金）　午前１０時～正午
場　所：　新潟市男女共同参画推進センター「アルザにいがた」　３０３研修室
出席者：　新潟市男女共同参画推進センター運営委員
　河野委員、西條委員、指田委員、塩沢委員、高橋委員、田口委員
事務局（男女共同参画課）
　稲垣課長、新井課長補佐、井上副主査、大塚職員、弦巻職員

１　開会

２　男女共同参画課長あいさつ

３　報告
（１）令和２年度事業報告（１１月～３月開催事業）
（事 務 局）　各担当より主催事業の報告
（塩沢委員）　満足度は高い数字が出ているので、ニーズにマッチしているのだろうが、男性対象の講座は60%台でこの低さは気になる。男性に気づいていないことに気づいてもらうために開催すると考えると、男性対象だけでは難しい。配偶者や家族を対象にしたらどうか。夫から仕事を取ったら何が残るのか配偶者の側としても不安で、逆に配偶者の側から見えるものがあるのではないか。
（新井補佐）　男性の満足度の低さについては、男女共同参画についての話を聞きたくないからかもしれないが、話を聞く機会のなかった方に少しでも耳に入れることができたのは良かった。
（河野委員）　以前、男性講座を担当したとき、夫婦で参加という提案をしたが実現しなかった。夫婦でと限定するとパートナーがいない人は参加できなくなる。
（塩沢委員）　定年期の男性と一緒に暮らす女性など、必ずしも夫婦セットで働きかけなくてもよい。
（河野委員）　男性の講座は、女性の講座と比較すると参加者の盛り上がりがない。男性はどういうものを喜ぶのかずっと疑問だった。
（塩沢委員）　昔、男性学がはやったが、なんで男性に働きかけるのか、そこから考え直したときに、いろいろ見えてくるのではないか。男性対象というと、料理や日常の生活の技術レベルの話が中心になるが、そうでないところでつなぐためには、男性だけを対象と限定しなくても、女性だけの場所があれば、男性に働きかけるポイントが見えてくるかもしれない。
（河野委員）　能力のある男性がたくさんいるので、なんとかいい方向に持っていけないものかといつも感じている。
（高橋委員）　この報告にはベンチマークがない。延べ参加者数621人が多いのか少ないのかわからない。満足度91.7%で、年度当初の目標は95%だった。他県のセンターの事例も見てみると、アルザの活動が活発でないということではないが、他県と比較してみないとこの活動がいいのか悪いのかわからない。アルザが30周年ということで、良くも悪くも型が決まって、マンネリ化するのではという危惧もある。満足度もいいが、参加人数を増やすことを目標にしたり、他

県でやっていることをやってみるなど視野を広げ新たなことを試みたらどうか。

（稲垣課長）　参加の人数や満足度については、来年度からの新しい行動計画の中では、指標を増やして状況をよく見ていけるようにしようとしている。今年度の参加人数は、新型コロナウイルスの影響で減ったが、昨年度は798人、その前の年は962人と減少している。参加人数は増やしていきたいが、ウイルスの影響もあり、オンラインも併用しながらやっていきたい。

満足度は95％という目標を来年度から計画の中でも成果指標として設けた。女性向けの講座は95％を超える満足をいただいているが、新しい層にも届くような形を取り入れたり、男性向けの講座を工夫していきたい。数字を見えるようにしたことで、課題が見えてきたので、次年度以降に生かしていきたい。

（西條委員）　コロナ禍で定員を絞った中で参加者621人という数字は良かったと思う。

グリーフケアという仕事をしているが、妻を亡くした夫は、これからどうしたらいいのかという悩みはある。アルザの男性向け講座は、元気な方が参加することがふさわしいと思うが、それよりもこの先どうやって生きていけばよいのか、そもそも自分の一生ってなんだったのかと考えている方が多いので、女性向けに実施しているカウンセリング講座が男性向けにあってもよいのではないか。

（新井補佐）　来年度は難しいかもしれないが、カウンセリング講座は男性向けにもできたらと考えている。

（高橋委員）　男性のジェンダーの専門家は少ない。個人的に男性学入門をやってみたいが、講師の選任に苦慮する。男性の生き方を見直すということも非常に重要だと思う。新潟でメンズリブのようなことができたらよい。

（田口委員）　定年期の男性の講座は、満足度にとらわれすぎずにこの世代の方にいろいろアプローチしていくことが大事だと思う。男女共同参画の話や今までしてこなかったことをトライしていこうという内容が多いので、それだけではなく今までの人生を肯定するようなものがあれば、捉え方が変わるのではないか。女性の生き方2のような自己分析する話や改めて振り返るような内容があってもよい。子育て期の男性からは、男性同士で話せて良かったとか、他の家庭の話を聞いて、自分が家事をやっているつもりだったがそうではないことに気づけたという感想があり、他の家庭のことを知るきっかけとするのも一つのアプローチの仕方なのではないか。夫婦同日でなくてもよいが、定年期の女性、男性に向けて、それぞれが持ち帰って、日常の中で使えるものを伝えるのも一つの案だと思う。

子育て期の男性講座を来年度公民館で実施する予定とのこと、よいと思う。公民館では女性向けの講座は多いが、夫婦で参加できるものは少ない。

定年期の男性講座でグループワークの声が聞こえなかったという感想があったが、コロナ禍でのグループワークの仕方や、今後オンラインの講座を始める際に、それぞれの講座の反省点を蓄積し共有し、リードしていってほしい。

（新井補佐）　グループワークがうまくいった講座を参考にしながら参加者の年齢等に考慮しやっていきたい。

（指田委員）　各講座のチラシが地味で、ラックに入れた時に見える上の3分の1の部分に

絵がないものがほとんどで字が大変多い。市報を見て来た人が多いが、タイトルも硬めが多い。ホームページにあげるカラー版と紙用の白黒版を作ると見やすい。特に年代が高い人は文字が多いとスルーすることがあるので、ぱっと目立つ方がよい。

定年期の男性向け講座のチラシにはキラキラマークはいらない。感想で不満だった方がいるが、内容が刺さったのではないか。こういう方は起爆剤になってくれるので、うまく企画に引き込めないか。企画はこのターゲット層の人達しかできない。男性講座は楽しくないと来ないので、料理をしながら、なぜ男性が料理をするのか、それはジェンダーとどう関わるのかを話せる人がいたらよい。女性の企画委員はそういう講師を探す。男性に最初からディスカッションを求めるのは難しいので、最後の 15 分くらいでよい。4 回程度の講座で顔見知りになり本音が出て、その中から企画委員になってくれる男性をピックアップし、次の企画を練ってもらう流れが、この世代の方達の講座を作る近道になる。

今、男性学、女性学とは言わないが、男性学はとても大事で、このような講座を卒業された方が男性学の勉強会をやると、より深まるのではないか。

カウンセリング講座の参加者が 3 回目以降減っているが、欠席理由は何か。

（新井補佐）　体調不良の方もいるが、3 回目から自己史の発表が始まるので欠席されるのかもしれない。

（指田委員）　事前に宿題を出すより、3 回目当日の最初に書く時間を少し設けたほうが、参加者は減らないのではないか。

（塩沢委員）　来年度、公民館で講座を実施するということだが、アルザの機能ということをもう少しきちんと考えていただきたい。行動計画の推進拠点としての立場からすると、公民館でやるのは少し違うのではないか。人が集めやすいから公民館でというのは危険な発想だ。

ワークシートを使うなど参加者が発信する講座が多いが、個人的なもの内面的なもの、自己肯定感などを中心にしたものになってしまいがちではないか。「個人的なことは社会的なことである」といった感想もあり、個人の内面に抱えている不安、問題は必ず社会的背景があって生まれてくる。その社会的背景を視野に入れた講座を考えていくのは難しいと思うが、定年期の男性の生き方講座「新聞記事から現代社会を読み解く」はそういう講座だったのではないか。この方向はこれからもやってもらいたい。また、ジェンダーで社会を考える講座は、アルザしかできない講座、アルザの特徴で、受講者も子どもの貧困と社会をつなげて考えている。こういう視点を持ってがんばってもらいたい。

（稲垣課長）　公民館で実施することについては、アルザが男女共同参画の推進の拠点であることは疑いようのない位置づけだが、拠点の捉え方として、物理的にここを使う、中央区だけで講座をするだけでなく、他の地域はアルザに触れる機会が少ないので出前講座的によい内容のものをお伝えしていくという意味での拠点ということも必要なのではないかと考えている。講座の内容やバランスを見ながら、どこでやったらよいのかその都度考えさせてもらいたい。

（高橋委員）　男性の講座の満足度が低いことについて、講座の目的が明確であって、受講者の目的意識があると満足度は高くなるが、定年期の男性の生き方講座は明確ではない。なぜなら、男性は人生に悩んでいない。その延長線で定年後どう生

きるか漠然としている。我々も多様なものの中から何をすくい取って、どう提供していくかが難しい。

また、男性はなかなか満足とは言わないところもあるのではないか。

（西條委員）　これから働く若者向けのものを年に１回でも続けて、先輩が後輩を連れてくるといった、アルザとかかわる学生委員のようなものができたらよい。

（稲垣課長）　学生向けの取り組みは大きな課題の一つだと思っているが、若い人に伝わるにはどういうやり方をすればよいのか。皆様からもアドバイスをいただきながら考えていきたい。

（西條委員）　例えば、メディアシップの中の４大学メディアキャンパスで、学生の委員が学生向けのイベントをしたりしているので、話してみてはどうか。

（塩沢委員）　インターネットの環境が整い、Zoom の利用など発信の仕方が変わってくるとそういったつながりも変わるのではないか。

（田口委員）　学生から社会人になると生活がガラッと変わるが、今振り返ると、学生時代は社会人や家族を持った生活が全く想像できていなかったので、大学生を取り入れるような講座もあるといい。

それと併せて、女性の生き方、男性の生き方といった講座はあるが、男女共同参画というのであれば、一番小さい社会である夫婦でお互いが共同して生きていくためにコミュニケーションをとるための講座があってもよいのではないか。子育て期の講座には夫婦で参加する講座があったが、子育て期に限らず夫婦で参加するものが分科会ではなく講座であるとより良いと思う。

アルザが男女共同参画の推進の拠点であることは大前提だと思うが、目が向いていない方々にアプローチするきっかけとして、他の部署とコラボした企画も一つの方法ではないか。

（稲垣課長）　夫婦向けの講座は必要だと考え、来年度、男女共同参画課で特に新婚、子育て前くらいの世代の方をターゲットにしてオンラインでのセミナーを実施する予定である。夫婦間で家事をどう分担するのか、どう家事をしたらよいか、共働き、共家事、共育児を夫婦で上手にチームを組んでやっていくには、夫婦間のコミュニケーションが大事なので、コミュニケーションが円滑にできるきっかけ作りのためのセミナーとしたい。

（２）男女共同参画市民団体協働事業の実施状況について

（事　務　局）　担当より事業の報告

（西條委員）　２団体は、決定額が空欄で、アンケートも付いていないものがあるが、来年度の会議で報告されるのか。

（新井補佐）　まだ、報告が出ていないので、来年度の審査までには委員にお送りしたい。

（塩沢委員）　「はぐハグ」の冊子はいつ頃できるのか。

（井上副主査）　来週完成する予定でいる。

（塩沢委員）　できたらぜひ拝見したい。

（田口委員）　万代市民会館にもホールがあるが、朗読劇を「ほんぽーと」で公演した理由はあるのか。

（井上副主査）　６階を利用する予定だったが、既に予約が入っており、他に空いているところを探し「ほんぽーと」になった。

（３）アルザフォーラム２０２０について

（ 事 務 局 ）　開催状況説明

（塩沢委員）　基調講演は聞けなくて残念だったが、ジェンダーの視点はどうだったのか。アルザを知らない参加者多く、6階での開催で、アルザの知名度が上がったと言えるのか。

（新井補佐）　県内の講師ということで、講演だけでなく、地元の雑誌でもアルザを紹介してもらうことができた。

4　令和３年度主催講座について

（ 事 務 局 ）　主催講座説明

（塩沢委員）　30周年の記念誌はフォーラムの報告集として作るのか。30周年はアルザの30周年である。

（新井補佐）　報告集をつくるときに、アルザの30周年の記念誌もあわせたものとしたい。

（塩沢委員）　今年の報告集も表紙だけでも色紙にしてほしかった。

5　その他

（ 事 務 局 ）　来年度から、市民団体協働事業の対象事業について、「国又は地方公共団体等から補助を受けていない事業」という要件を加えることを説明。

「第4次新潟市男女共同参画行動計画」についてアルザに関する変更部分について説明。

（事 務 局）　新年度の運営委員会の第１回目は６月頃の開催を予定しているが、あらためて各委員の日程を調整のうえ案内する。